

## 平成30年度 鶴見高等学校 不祥事ゼロプログラム検証結果

項目	目標	行動計画
成績処理、調査書作成	成績処理業務に係る事故を未然に防止する。 調査書作成業務に係る事故を未然に防止する。	○6月に、調査書作成について、3学年職員等関係職員を対象とした職員研修を行った。12月1月に調査書発行に向けて随時、注意喚起・情報共有を行った。 ○8月に定期試験・成績処理の事故防止について、職員研修を行った。年間を通して定期考査の際に、答案の保管等職員の注意を喚起した。定期試験については誤字脱字や配点の細部に至るまで、事前の点検を今後も徹底する必要がある。
個人情報保護	個人情報の流失を未然に防止する。	○4月に「行政文書の適切な収受と発出について職員研修を行った。個人情報の管理について確認した。 ○5、11月に学校における危機管理について職員研修を行った。個人情報の扱い、生徒とSNSや業務用メールアドレス以外でのやりとりが厳禁であること、外部記録媒体の適正な管理について確認した。
私費会計、現金管理	私費、部費、校内販売に係る事故を未然に防止する。	○顧問会議等を通じて、部費に関する出納帳、領収証の保管を徹底、私費の徴収・決算報告について保護者あての通知の様式を整え、適切に行うことを徹底した。 ○4月に、「私費会計事務処理の注意事項」を資料として校内説明会を開催し、正確な内容の把握を徹底した。11月の研修会では過去の事例を挙げて、特に返金等の扱い等を確認した。研修会後に会計担当者には課題演習を行い理解の徹底を図った。 ○不正経理に関しては、年間を通して、通知、資料等を活用し、朝の打合せや職員会議等で、随時意識を喚起したが、支払いの遅れ、立て替え払いについて、まだ改善の必要がある。
生徒理解、教育相談	生徒指導、教育相談などに適切に対応する	○4、7、12月に、不登校や身体的あるいは心の病等にかかっている生徒について、職員間で情報を共有した。
交通事故・酒酔い、酒気帯び運転	交通事故の発生、酒酔い・酒気帯び運転を未然に防止する。	○通知、新聞記事等を活用して、職員会議等で、注意を喚起するとともに、11月に、交通事故・交通違反の防止について職員研修を行った。軽微な交通事故も直ちに報告するなど、職員の適切な対応が見られた。
入学者選抜	入学者選抜に係る注意	○12月、1月に入学者選抜に係るマニュアルや点検体制についての研修を行った。
セクハラ、わいせつ行為	セクハラ、わいせつ行為を未然に防止する。	○インストラクターも含め生徒に対応するすべての職員に対して年度当初・年度末を含め、3回、個人情報の不適切な収集、使用がないことを調査・確認した。 ○7月に、セクハラ防止の研修を行った。パーソナルスペースを意識することなど不快感を与えない配慮を求めた。
体罰防止、人権に配慮した指導	体罰防止、人権に配慮した指導を行う。	○10月に、体罰防止、人権に配慮した指導についての職員研修を行い、生徒への声掛けの際も否定的な言葉に終始しないよう注意喚起した。12月には職員全員に調査を行った。

○平成30年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と平成31年度に取り組むべき課題（校長意見）

事故防止に向けて、適切な時機をとらえて研修会を行い、個々の職員へアンケートを行うなど注意喚起を繰り返し実施した。毎朝の職員打合せにおいては、その日に一番必要である注意・情報を確認して日々の業務に臨んだ。

課題として、会計処理については学年費・部活動等の会計担当者が変わる際の引き継ぎを確実にを行うこと、進路に関する書類の発出、推薦に関する手順など職員が確実に理解して業務にあたること、入学者選抜等については直接担当しない業務においても情報を共有することを徹底することなどが必要である。

また、生徒の安全・安心な学校生活を支えるため、クラス担任、部活動の顧問、学年間で必要な生徒情報を迅速に共有することで、生徒・保護者への対応をきめ細かく行う必要がある。

平成30年度はスポーツ振興センター、安全振興会への申請などを遺漏なく、迅速に行うよう組織的な改善を行ったが、平成31年度に向けて、改善により確実な実施が行われているかを検証し、さらに安全な体制を構築したい。

平成31年度は、不祥事ゼロプログラムを活かし、毎日の打合せでの注意、研修会等を効果的に行い、職員の全員参加により、学校全体で継続的に事故防止に取り組み、不祥事ゼロを達成したい。